

茨城県海外子女教育
国際理解教育研究会
2010年度 広報誌No. 2

会 長 あ い さ つ

～檜山会長より、在外での体験談が寄せられています～

日本人学校で経験したこと

茨城県海外子女教育・国際理解教育研究会
会長 檜山 美則

今回は、派遣教員だからできた貴重な（二度としたくない）経験を皆様に紹介し、派遣を希望される先生方の期待を膨らませられたらと思います。私はカイロ日本人学校に幸運にも2度派遣されています。アフリカにあるイスラム教の国、砂漠気候で雨が降らない国、最近まで戦争をしていた国、個性的な動物と人々のいる国、歴史遺産あふれる国、そんなエジプトを紹介します。

千のミナレット（尖塔）の街カイロ

カイロに赴任し、長旅の疲れから熟睡していると突然の大音響にベッドから転げ落ちそうになりました。しわがれた独特の節回しは、後に近くのモスク（イスラム教の寺院）から流れてくるお祈りの時間を知らせるものとわかりました。カイロにはモスクが千くらいあり、それぞれが高出力のスピーカーを備え、一日5回のお祈り時間は街中が喧噪に包まれます。カイロに住む日本人が住居を決める際に、近くにスピーカーがないことは絶対条件です。

ラクダは楽じゃない

学校はピラミッドが見えるほど近くにあり、観光目当てのラクダは毎朝学校の近くから出勤していきます。エジプトはたくさんのラクダをスーダンなどから輸入していますが、その殆どは食用で、観光客を背中に乗せ生きながらえるのはほんのわずかなラッキーなラクダたちです。エジプトの砂漠には野良犬ならぬ野良ラクダもいます。興味のある方は餌付けしてペットとして飼ってみてはいかがでしょうか。

雨とラクダの共通点

エジプトには雨が降りません。正しくは年間50ミリくらいの雨が降りますが、天気予報は毎日晴れ、アラビア語には雨という単語がありません。水を意味するマイヤーという単語が使われています。雨がやたら降る日本では、梅雨、霧雨、時雨、涙雨など雨のつく単語は何百もあります。方やエジプトには昔から人々の生活に欠かせない重要な動物「ラクダ」がいます。昔は砂漠の唯一の交通手段でした。そのラクダには、太ったラクダ、ハンサムなラクダ、年寄りのラクダ、父さんラクダなど別々の単語が何百もあるそうです。文化を統計的に調べてみるのも面白そうです。

マンゴー狩りは大騒動

カイロ日本人学校の現地理解教育の一環として、保護者と児童生徒が参加するマンゴー狩りが行われました。エジプトは高温乾燥気候のため果物は例外なく甘くておいしく、その王様がマンゴーです。担当の職員は適当な農園を探して何度か下見をし、当日に備えました。さあマンゴーを腹一杯食うぞと全員気合いを入れて入ってみると、何ということかマンゴーの木には1個も実がついていません。理由を問いただすと、前日に業者がマンゴーを買いに来たので全部売ってしまったとのこと。残らず売れてラッキーだったと、にこにこしているではありませんか。驚くやら腹が立つやらで、とにかく保護者に理由を話し謝りました。日頃は厳しい保護者の方々には意外に平然としていました。カイロ生活をしているとこういうことは日常茶飯事で、いちいち怒っては生きていけないとのことでした。

オペラハウスで学習発表会

以前カイロオペラハウスは市の中心部にありました。スエズ運河の開通を記念してエジプト政府が作曲家ベルディーに依頼したのがオペラ「アイダ」です。アイダを初演したオペラハウスは火災で焼失してしまいましたが、日本政府の援助で再建されました。そのオペラハウスを会場に学習発表会が行われました。児童生徒の発表や、日頃交流している現地校アルスン校の生徒、カイロ大学日本語学科の学生も参加して盛大に行われました。エジプト人も見学に来ていて、日本の音楽教育のレベルの高さに驚いていました。その中で小学生が吹くピアノに関心が集まりました。あの楽器は何という楽器だ。子どもに買ってあげたい。どこで買えるんだ。いくらぐらいするんだ。どうしても欲しいらしくしつこく聞いてきました。中にはエジプトで売れば儲かるという輩も現れて、商社マンの保護者に教えようかと迷ったほどでした。

砂漠に木を植えよう

カイロの近郊には砂漠を緑化するための植樹園がたくさんあります。カイロ日本人学校でも全校で植樹をするための植樹園を持っています。毎年全校児童生徒で砂漠が緑でいっぱいになることを祈って植樹をしています。当日には農業大臣の奥様という方が見えられて、エジプトと日本の友好に貢献してくれ感謝していると挨拶されました。植樹が終わって休憩していると奥様が手招きされ、私に気があるのかと周囲を見回して近づくと、実はいい土地があるんだけど買わないか。地価が毎年上がっているのだから買って置くのと儲かるぞというお話。何のことはない営業で来られていたようでした。そのような下心とは関係なく、エジプトの緑化はどんどん進んでいます。

心優しいエジプト人

このような話を聞かされるとエジプト人の人間性が誤解されてしまわないか心配です。多くのエジプト人は心温かな人たちで、親しくなると家族のように付き合ってくれます。また、困っている人を決して無視したりしません。日々のトラブルに怒りながらも、結局は笑って水に流してしまうのは、彼らの優しさを常に感じているからでしょう。最近の日本人は、家族で憎しみ合ったり、傷つけ合ったりしていますが、エジプト人の家族を思う気持ちや、友達を大切にしている気持ちを見習わなければならないと思います。海外で生活すると自分の価値観がいかに独りよがりであったか思い知らされます。折角我々に与えられたチャンスですから、是非チャレンジしていただきたいと思います。

在外教育施設に派遣されている先生方からのお便り

インドネシア・スラバヤ日本人学校 活動報告

平成 22 年度派遣
スラバヤ日本人学校
教諭 川久保 尚
(神栖市立神栖第三中学校)

1 はじめに

インドネシア・スラバヤの生活も半年が経とうとしています。現地の生活にも慣れ、病気もせず学校業務も順調におこなうことができます。1年間経ってみないと学校の流れや気候・文化の違いがまだまだ、分からないところもありますが、自分の活動を振り返り、今後に生かすとともに日本にいる方々に自分の活動を知ってもらえればと思います。活動報告としてまとめさせていただきます。

2 スラバヤ日本人学校の概要

ここスラバヤ日本人学校は、幼稚園から小学部・中学部と同じ敷地内で活動をとめています。小規模校ではありますが、環境や

人材には恵まれた学校といえます。

現在の児童・生徒数は小中学部あわせて60名程度です。そのうち中学部は16名となっており、教員は14名います。この人数で複式学級の形をとらず、小学部には副担任が1名いるのは恵まれています。そして、私の担任する中学2年生は、1学期末に2名転出したこともあり、スラバヤ日本人学校では最も少ない男子のみ3名のクラスとなりました。人数が少ないので、学校行事や委員会活動などでは、小中が協力して行うことが多いです。運動会では紅白に分かれて小中学部合同の練習をしたり、中学部も業間休みの時間があり、マラソンなどともに活動したりしています。人数が少なく、運動会やサッカーなど団体種目を行うには難しい面がありますが、その分全員が活動の中心とならなければいけないので一人ひとりに責任があります。

子どもたちは、毎日保護者に車で送迎されてきます。授業開始が7時半で放課後は4時頃下校になっています。インドネシア国内の学校も始業時刻は早いのですが、(午前・午

後の部と分かれていて半日で終わります。)それは、暑さに対する対策と車・バイクによる交通渋滞がひどいのでそれを避ける為でもあります。車で送迎と聞くと恵まれていると感じていましたが、実際は自由に行動することが制限されており、本当に恵まれているとはいえないと思います。子どもたちは素直で学習に行事に意欲的に取り組みます。放課後等では小中一緒になって遊んでいる姿も見られるなど、みんな仲の良い学校といえます。

3 学校行事(運動会)について

1学期の大きな行事として運動会があり、日本と大きく異なる点が3つありました。

1つ目として、開催時期です。運動会は7月24日に行われたのですが、それは、インドネシアのスタッフの断食(今年は8月10日~9月9日)を避ける為です。スタッフの人は事務員・警備・用務員と主に3つの業務に分かれ働いてもらっています。24時間警備をしたり、教室以外の清掃や修繕をしてくれたりします。(学校の机など木材の備品は全て手作りで作ってしまいます。その技術は素晴らしいです。)運動会でもテントやイス・放送のセットなど全て会場設営はインドネシアのスタッフの人や業者が行いました。肉体労働が多いので断食の期間を避ける配慮をしています。

2つ目は、主催がジャパクラブ(日本人会)ということです。勿論教師が企画の中心となり子どもが競技を行うのですが、テーマは生徒が決定し、種目については教師と日本人会の人が行行委員を立ち上げ決定するなど、業務がいろいろな人にまたがって行われます。また、準備係や放送係などは子どもは行わず、教師と保護者さらに、一般の人も加わって行いました。

3つ目は、現地の学校との交流です。多くの日本人学校でも行われているかもしれませんが、インドネシアの4校の学校から、それぞれ15名程度招待し、ともに競技を行いました。練習は2回しか行ってないので、種



目は「ムカデ競争」「リレー」「大玉転がし」など分かりやすいものでした。

運動会を終えてみると、学校の運動会というよりは、「市民運動会を学校が中心となり行なっている。」という印象を受けました。一般の人の競技もあり、運動会は午前で終わるので昼食をみんなで取りました。「スラバヤに住む日本人が集まり、交流の1つとしての運動会で、子どもたちの競技・様子を観てもらおう。」このような意味が込められていると思います。

子どもの種目のメインは応援合戦とマスケゲームです。どちらも小中合同で、休み時間や放課後の時間を割いて練習しました。今年度の応援合戦はソーラン節とチアリーダーディングがメインテーマでした。



4 バリ日本人学校補習校巡回指導(8月4日~7日)

スラバヤ日本人学校では、毎年1名がバリ補習校への巡回指導にあたるのが慣例になっていました。しかし、例年日本語の十分ではない子どもたちへの支援に1名では十分な成果が出せないと反省が出ており、今年度は2名の派遣となりました。

今年度、自分が行かせてもらえることになり、そこで、小学1, 2, 4, 6年生と中学1, 2年生の授業を行ないました。

① バリ補習校の概要

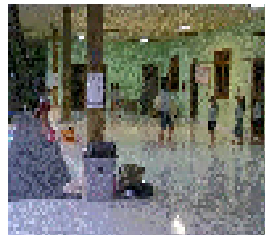
- ・国際結婚家庭を対象とした「国語クラス」と、日本への帰国予定者を対象とした「国算クラス」が設置されている。「国語クラス」では日本語教育の授業を取り入れた国語の授業を行い、「国算クラス」では日本の学習指導要領に沿った学習内容で、帰国時に学年相当の学力が保持していることを目標に授業を行っている。いずれのクラスや学年も午前又は午後週1, 2回ずつ(1日につき2時間)授業が実施されている。

- ・1クラスは約5, 6人であるが、生徒数は約170人である。インドネシア政府からの承認は得ていないようであり、私塾的な存在となっている。サッカーやピアノを習うか補習校にいくかを選択している子どももいた。

② 教育指導について

- ・バリ補習校の先生方は、授業の準備や生徒との関わる時間が少ない中、大変努力し、工夫していると感じた。それは、授業でサポートして頂いたときに見られた、生徒との様子

や保護者との関係からである。自分が廊下を歩いているときに、保護者の方から「スラバヤから授業をしにきて頂いた先生ですね。ありがとうございます。」という言葉を受けた。とてもうれしく思い、これはバリ補習校の先生方の普段の努力と信頼があるからこそ、このような言葉をかけて頂いたのだと思った。また、休み時間、放課後の短い時間でサッカーや文化祭の練習をしている子どもたちの様子を見て、授業のときと同じような素直で純粋な姿が見られた。自分も感銘を受け、またスラバヤに帰り、子どもたちのために努力していこうと思った。



@@@@@@@@@@@@@@@@

「香港」にて学ぶ

平成 21 年度派遣
 香港日本人学校小学部香港校
 教諭 笠井 博貴
 (守谷市立守谷小学校)

香港日本人学校小学部香港校へ赴任して1年半が過ぎました。香港での生活に慣れると同時に日本とは違う香港の様々な面にも目を向けられるようになってきました。「地域から、地域の中で、地域とともに」学ぶという、地域密着型の学習の進めていくためには、教師自らがその土地のことを積極的に理解していくことが求められます。

今回は香港での生活を通して学んだものや香港日本人学校小学部香港校において実践されている地域素材の教材化について報告したいと思います。

1. 香港における現地理解

(1) 香港の地理

中国広東省の南東の沿海地帯に位置する約 1100 平方キロにわたって広がる地域。九龍、香港島、新界の3つに分かれる。香港島はビクトリアハーバーを隔てて九龍の真南に位置し、新界は九龍の北方、中国本土と境を接する地域で、面積では香港の大部分を占めるとともに、260以上の島々を含む。

香港全土の70%以上が農地で、うち40%が国立公園として保護されている。つま

り、土地全体における国立公園の割合は、世界トップクラスといえる香港。

(2) ビクトリア港

ビクトリア港は、世界でも船舶の交通量が多い港として知られ、また、その美しい海岸風景は世界的に有名。特に煌びやかな摩天楼の光により生まれる夜景は、100万ドルの夜景とも賞賛され、多くの人々を魅了してきた。



(3) 街市

香港全域に約 100 か所ある市民の台所。食物環境衛生署という役所が管理する公設の市場。多くはビルの1階から3階くらいまでに設けられ、1・2階を野菜や魚、肉類などの店が占め、街市によっては3階に「熟食中心」というフードコートが入っているところもある。



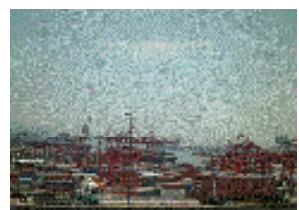
(4) 香港トラム (路面電車)

1904年に開通以来、香港島北部の主要地区を結ぶ重要な交通機関として、現在も活躍を続けている。車両は、一般営業用路面電車としては、世界でも他にイギリスのブラックプール市にしか残っていない、2階建て車両を使用しており、観光資源としても重要な存在となっている。



(5) コンテナターミナル

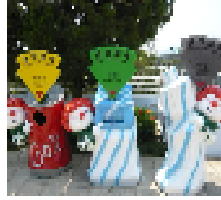
香港のコンテナ扱数は2008年には2449万TEU(20フィート長コンテナに換算した単位)で、世界でも有数の港である。コンテナターミナルは、岸壁に大型クレーンが並ぶコンテナタ



一ミナルに加えて、巨大な倉庫や何本もの幹線道路が通る一大物流地域になっている。

(6) ごみ箱

政府が管轄する道路や公園などの公共スペースに設置されている。香港中で約1万9000個も置かれていて、繁華街だけでなくあまり人が通らないような離島のハイキングコースまで一定の間隔で設置されている。



(7) 公園

香港の公園全般については、香港政府の「康樂及文化事務署」が管轄している。香港には大小さまざまな公園があり、スポーツ施設や博物館や美術館、植物園などを併設した大規模な都市型公園や街中の公園に見られる子ども向けの小型の公園、「香港海洋公園」や「香港湿地公園」など、特定の要素をもって目的に



な都市型公園や街中の公園に見られる子ども向けの小型の公園、「香港海洋公園」や「香港湿地公園」など、特定の要素をもって目的に

なされた施設を併設した特殊な公園の大きく3種類に分けられる。小型の公園は、世界基準の安全への配慮がなされている。遊具はさびなどの劣化による怪我や破損の心配が少ない樹脂製になっている。また、丸みを帯びた、カラフルな見た目になっている遊具が多い。さらに特徴的な面は、遊具で遊んでいるときに子どもが誤って転落しても安全なようにウレタンマットが必ず敷いてある点である。

2. 香港日本人学校小学部香港校における地域素材の教材化

(1) 社会科における地域素材の教材化

社会科の目標や内容に合わせ身近な人々から学んだり、交流したり、施設を見学したりする活動が各学年の学習内容に合わせ計画が立てられている。また、学習内容の工夫・改善に努め、学習指導の充実を図ることを通して、現地理理解教育や国際理解教育など、香港ならではの教育活動にも重点が置かれ実践が行われている。

<社会科における地域素材の教材化>

3年

香港探検 トラム乗車体験 社会科見学 (ジャスコ・警察署・消防署) 工場見学 (ヤクルト)

4年

社会科見学 (ゴミ処理場・歴史博物館) 航空教室 ドラゴンボート体験

5年

空港見学 コンテナヤード見学 工場見学 (トヨタ自動車)

6年

社会科見学 (歴史博物館) 日本人墓地清掃

(2) 第6学年の実践：香港歴史博物館見学

香港の歴史や文化を知る上で内容的にも大変充実した施設ではあるが、日本語によるパンフレットの説明はあるが、子どもには難しい内容でもあるなどという理由から、見学したことがある児童はあまり多くはなかった。

校外での学習の際には必ず学年の担当がその場や施設の実踏を行うことになっている。私が6学年を担当した際も担任は事前に博物館を訪れ、館内の展示物や説明内容の確認を行った。そのため見る展示物や説明する事柄が明確になっていたのも、効率よく見学ができた。1時間20分という短い見学時間では、全てをじっくりと見て廻れるような施設ではなかったが、博物館という場が学習の場としてとても有意義な場になった。



【旧石器時代の人々の生活】



【広東オペラ】



【アヘン戦争の展示室】

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

ロッテルダム日本人学校活動報告

平成22年度派遣
ロッテルダム日本人学校
教諭 三國 智子
(結城市立結城東中学校)

まだこちらに来て5ヶ月ほどですので、1学期にあった、ホームステイ(牧場体験)についてお知らせします。

オランダのロッテルダム日本人学校は、生徒数53名の小規模校です。オランダ第2の都市であるロッテルダム市の郊外に位置しています。学校の周りには自然があふれ、湖や運河ではカモや白鳥がゆったりと泳ぎ、ちょ

っと自転車を走らせると、牛や羊、馬などがのんびりと牧草を食べている様子に出会います。

毎日の通勤では、きれいな景色を楽しみながら自転車を走らせています。赴任したばかりの春はとてもすてきな季節で、毎日夜 10 時くらいまで日が落ちず、オランダの人は長い 1 日をたいてい外で過ごしていました。休日は川や湖でボートに乗ったり、ベランダで日光浴をしながら読書をしたりしている様子をよく目にしました。寒くて暗い長い冬が終わり、太陽が長く顔を出す春を、みんなが楽しみにしていたんだなあ、と思いました。

広い広い空から大きな太陽が照りつける 6 月下旬、オランダの北にあるヘーレンフェーンという町でホームステイをしました。小学部 5 年生から中学部 3 年生までの児童・生徒と共に、大きな牧場で牛を育てている酪農家の家で、搾乳や子牛の世話など、農家の仕事を体験させていただきました。自分自身でも、ホームステイはもちろん、搾乳も農家の方とかわることも初めてでした。農家の方とは英語でコミュニケーションをとることになっていましたが、私は英語もあまり話せないもので、どうなることかととても心配していました。でも、農家の方は、子どもたちにも私にも、優しく仕事を教えて下さり、できる範囲でいろいろなことを手伝わせて下さいました。搾乳、子牛へのミルクやり、テントの片付け、牛小屋の掃除、放牧されている牛を小屋に戻す仕事など、様々な仕事がありました。特に心に残っているのは、搾乳です。機械を牛のお乳にあて、どんどん牛乳を吸い取っていきました。牛より低いところでの作業で、ちょうど上に手を伸ばすと、牛の腹の下に届くようなところから、頭を蹴られないように気をつけて、機械を取り付けていきました。農家の方は、質のよいお乳をたくさん出す牛を本当に誇りに思っていて、たくさん話を聞かせて下さいました。毎日何気なく口にしている牛乳や乳製品は、農家の方々の毎日の地道な作業によって食卓に運ばれてくるんだなあと実感しました。夜は、家族の方と子どもたちとでお茶を飲みながら話をしたり、

日本の文化である折り紙やだるま落としなどを紹介したりして、よい時間を過ごすことができました。また、一番上のお嬢さんが、学校の宿題の数学の勉強をしていて、ちょっと一緒にやることもできました。日本



の問題集よりも、実生活に基づいた内容の問題が多く、国によって学習内容も様々であることを知りました。農家の家族の方と過ごすことで、言葉は多少通じにくくても、コミュニケーションをとろうとすれば、気持ちは通じるんだなあと思いました。

今回の経験は、自分自身がオランダをよりよく知ることに大変役だったと思います。また、英語がうまく話せなかったときに一緒に過ごした子どもたちにも、農家の方にもたくさん助けてもらいました。私にとっていろいろな面で貴重な経験となりました。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

大連日本人学校『スクールポリシー』より

平成 21 年度派遣
大連日本人学校
教頭 青葉正之

(つくばみらい市立小張小学校)

小学部 6 年生の 1 年間

1. 学年紹介

小学部の最高学年である 6 年生は、小学部のリーダーです。子どもたちは、学校生活の様々な場面において、中心になって活動しています。活動を通して、最高学年としての自覚や責任感を育てていくことができると考えています。

【学習のリーダーとして】



大連日本人学校では、「自ら学び、共に学び合う子どもを育てる授業の創造」を研究テーマに、学力の向上を図っています。

<教室掲示の様子>

子どもたちが、課題やテーマに自ら興味をもって取り組み、互いの意見を交流することを通して、共に学び合い、学力を伸ばさせることができると考え、日々の授業に取り組んでいます。6 年生の教室では、「話し方」と「聞き方」について掲示をしています。話し方では、「説明・発表」「意見」に分けて話し方の基本を提示しています。また聞き方では、背筋を伸ばして、うなずきながら聞くこと、「はい。」「そうです。」などと反応すること、自分の考えと比べながら聞くことなどを提示しています。

【委員会活動のリーダーとして】



毎朝「おはようございます！」というさわやかなあいさつが玄関から聞こえてきます。生活委員会のメンバーによるあいさつ運動で<図書委員会「読書の木」>す。また、体育委員会では、休み時間を中心とした全校遊び、図書委員会では、業間読み聞かせ、環境委員会では、教室きれい大賞、友好委員会では、現地校との交流会企画などに取り組んでいます。このように、各委員会では6年生が委員長や副委員長を務め、中心となって活動を盛り上げています。

【いつも心にSmileを～みんなでつくる大切な絆～】

6年生では、「いつも心にSmileを」を1年間の学年目標とし、学習や学校生活に取り組んでいます。学習では、交流活動に取り組んだり、遊びでは、みんな仲良く思いっきり遊んだり、話し合ったりして、互いの絆を深めています。



【放課後の学級レク】【1年生に読み聞かせ】

2. 6年生での学習紹介

国語や算数、理科や社会などの教科をはじめとして、基礎基本の定着に努めています。また、総合的な時間の学習を中心に、日本と大連の関係やこれからの日中友好について考えを深めています。

【体育の学習より～水泳～】

夏には、水泳の学習が行われます。学校の近くにあるプールを使い、5・6年生合同で、泳力別に分かれて授業に取り組みます。ビート板やヘルパーを用いながら、クロールや平泳ぎに挑戦しています。授業のまとめでは、泳力の検定を行っています。

【グループは泳力別】

【授業の最後は自由練習】



【社会：3人の武将と全国統一～研究公開授業～】

社会の研究公開授業を行いました。本校では、学習の中で交流活動という時間を設定し、自分の考えを二人組や三人組、グループで自分たちの考えを出し合い、質問、意見などを通して考えを深め合う交流学习の推進を行っています。1学期には、社会の授業で、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の一人を選び、調べ学習の結果から、自分の考えを友達に発表し、交流することで3人の武将についての理解を深めていきました。この学習を通して、学習内容が深まるだけでなく、考えを表現する力、友達に伝えるコミュニケーション能力が育っていると考えています。



まずは、調べたことを中心に自分の考えをまとめながら、発表の準備に取り組みます。

交流活動では、友達に自分の考えを伝えます。友達の考えと比べることで考えが深まります。



全体発表では、自分のグループで出た意見をまとめながら、全体に分かりやすく伝えていきます。

【道徳の時間から～すべてがつながっている心のプレーキ「くつそろえ」～】

道徳の時間では、「自分の生活を振り返って、望ましい生活習慣をすべての生活につなげていながら、節度のある生活をしようとする態度を育てる。」ことをねらいとし、「くつそろえ」という資料を活用した授業を展開しました。くつをそろえることが、自分の行動や生活を見つめることにつながることを資料を活用しながら学習しました。



3. 6年生での行事紹介

【学べ歴史！42人で歩む！西安での修学旅行！】

大連日本人学校では、小学部6年生と中学部2年生合同で、修学旅行を行います。子ど

もたちがとても楽しみにしている行事です。
 南城門でのサイクリングでは、風を切って城壁の上を走りながら、西安の街並みを見学しました。子どもたちの楽しかった思い出の一つです。



兵馬俑の見学では、その大きさや量に圧倒されていました。身近に中国の歴史の深さや素晴らしさを感じることができ、子どもたちのよい思い出の一つとなりました。



【最高の舞台に！】



9月には小学部、中学部合同の運動会が行われます。赤組、白組に分かれての運動会は大いに盛り上がりま

す。6年生は、選手はもちろん役員や応援団員として大いに活躍します。小学部3年生から中学部までの児童生徒で演じる組体操は、運動会を盛り上げる種目の一つです。

【学習発表会に向かって】



小学部学習発表会には、たくさんの保護者の皆様に来校していただき、子どもたちの精一杯が

んぼっている姿をしっかりと見ていただいています。6年生は、これまでの総合的な学習の時間で学んできた内容を詩や意見文、劇を通して伝えました。また、幕の開閉や照明の一部、BGMやパワーポイントの操作も6年生が担当しました。「心に響く一つ一つの言葉」というスローガンの下、自分たちの思いを精一杯見ている人に伝えていました。発表の最後には、平和への思いを込めて「HEIWAの鐘」の合唱に挑戦し、講堂いっぱいに平和への思いを込めた歌声が響き渡りました。

**大連日本人学校における外国語活動
英語活動について**

大連日本人学校では、在外教育施設の特徴の一つとして外国語活動の推進に努めていま

す。現在、日本の小学校では、小学部5年生と6年生の外国語活動（英語活動）が始まりましたが、本校では小学部1年生から6年生まで週1時間の英語活動を行っています。授業は、日本人の英語専科の教師と英語を母国語とするALTの2人で取り組んでいます。中学部でも各学年に週1回はALTを活用し、英語力の向上を目指しています。



日本人の英語専科教師



ALTからはその国の文化も学びます

中国語活動について

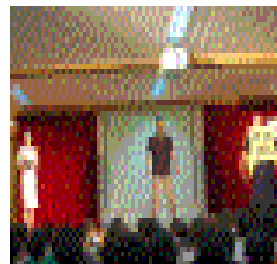
中国語活動

中国大連にある意義を考え、外国語活動として小学部1年生から中学部3年生まで週1時間の中国語活動に取り組んでいます。小学部1年生から3年生までは各教室で中国語を母語とする教師と、各担任と2人で授業を進めています。小学部4年生から小学部6年生中学部では、「入門」「Aクラス」「Bクラス」「Cクラス」「Dクラス」の5つの習熟度別クラスに分かれて授業を進めています。



今週の中国語

木曜日の朝の時間を活用して、「今週の中国語」を行っています。毎回その時期に活用できる単語や言い回しを学習します。また教職員がゲストとなり楽しく学習が展開されます。学校掲示板にも「今週の中国語コーナー」があり、今までのゲストの写真が飾られています。



中学部活動について

1. 部活動の目的

大連日本人学校中学部における部活動は、平成21年度から活動が始まりました。平成22年度は、活動時間を長くしたり、大連日本人学校の全教員が顧問となって指導にあたりたりするなど、部活動のこれまで以上の活性化を目指しています。

部活動の目的は、大きな柱として2つの目的があります。

(1) 自分で考え、判断し、行動するとともに、自ら鍛え、自己の伸長に努める生徒の育成を図る。

(2) 切磋琢磨してお互いに高め合う厳しさを育て、目標達成のために、最後まで粘り強く取り組む生徒の育成を図る。

これら以外にも学年を超えて活動とともに行う中で集団性を高めたり、リーダーシップの力を高めたりしながら活動をしています。

2. 対象及び活動期間

(1) 対象：中学部1年生～3年生 原則として全員参加

(2) 活動日：毎週月曜日 15:30～17:00 ※下校17:10

(3) 担当者：大連日本人学校 全教員部活動を行う月曜日のみ、下校時刻が小学部よりも遅くなります。

また、所属する部活動の決め方については、中学部2、3年生は、前年度所属した部活動の所属を基本とします。また、中学部1年生については、年度当初に体験入部の期間を設け、すべての部を体験した後、入部届けを提出することになります。

部活動は、原則として3年間同じ部で活動をします。なお、どうしても転部したい場合は、本人、保護者、担任、顧問で相談して、決定していきます。



バスケットボール部 練習の様子

3. 部活動紹介

大連日本人学校中学部では、バスケットボール部、バドミントン部、和太鼓部、美術部の4つの部活動を開設しています。ここでは、各部の活動について紹介します。

○バスケットボール部

バスケットボール部は、「バスケットを通してチームプレーを身に付けよう」という目標で活動しています。練習では、バスケットボールの基本はもちろんですが、チームとして集団で活動するとき大切なこ

とを学びながら活動しています。平成21年度は、1学期に中学部の第十六中との交流会で交流試合を行いました。その試合のために、フォーメーションについて考え、実際に動いて練習を行いました。また、2学期には、1学期の十六中との試合で発見した課題を克服する練習を中心に活動を行いました。大連楓葉国際学校との交流試合では、練習してきた成果を発揮することができました。3学期も試合で出た課題の克服を中心に練習メニューを設定して練習をしました。

○バドミントン部

バドミントン部は、「基礎体力を向上させる。バドミントンの基礎基本を身に付ける」という目標で活動しています。

平成21年度は、部員全員が未経験者であったこともあり、1学期はバドミントンのルールについて学んだり、基本動作の反復練習を行いました。2学期は、バドミントンのコート内でしっかり動くことができるように基本的な動きを練習したり、サーブやスマッシュの打ち方を練習したりしました。練習日は、テーマを設定して練習を行い、練習の終わりにテーマを意識した試合を行い、少しずつ技術を高めていきました。3学期は、2学期までの練習を生かし、個人戦から試合を始め、最終的にダブルスで試合ができるようになりました。このように、バドミントン部は、少しずつですが、確実に自分が成長していることを実感できる活動を行っています。

○和太鼓部

和太鼓部は、「中学部の部活動としての取り組みを確立させよう。和太鼓の技術をより向上させよう」という目標で活動しています。



和太鼓部 練習の様子

平成21年度の1学期は、昨年までのクラブ活動で和太鼓を経験している生徒もいるので、前年の復習からスタートしました。和太鼓の感覚を思い出しながら、1学期に中学部の十六中との交流会での演奏に向けて楽曲を作成し、練習を行いました。2学期は、終業式や商工会主催の忘年会での演奏に向けてさらなる技術の習得と新しい楽曲づくりと練習を行い、多くの人に感動してもらえ演奏をすることができました。

3学期は、次年度の活動に向けての練習方法の見直しも行いながら練習を継続しました。

和太鼓部は、学校内はもちろん学校外の様々な場面で演奏を披露することが多い部活動です。そのため、週1回の活動日はもちろん休み時間など少ない時間も使って地道に練習を繰り返し、すばらしい演奏ができるように成長しています。

○美術部

美術部は、「自主的に活動しよう」という目標で活動しています。平成21年度は、年間を通して校内で行われる児童生徒作品展や、中学部の総合的な学習の時間発表会などの看板を制作し、作品展等を盛り上げることができました。これらの看板制作の合間を縫って各自が個人作品の制作にも取り組みました。個人制作では、石彫、色彩学習、イラストなどを行いました。

3学期には、中国の文化を理解する活動として、講師の方をお招きして「中国結び」についてその方法を学んだり、実際に作ってみたりしました。このように、美術部は幅広い活動を通して、各自の美術感を高めています。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

コロンビアのイメージ ～新たな側面の発見～

平成22年度派遣
コロンビア日本人学校
教諭 清家 達也
(牛久市立神谷小学校)

(1) コロンビアのイメージ

「コロンビア」という国の名前を聞いて、最初に思い浮かべるのはどんなことでしょうか？

私自身は「コーヒーで、コロンビアという名前を聞いたなあ」程度でした。同時に「麻薬・ゲリラ」といった危険なイメージしか湧いてきませんでした。

では、実際のところはどのようなのでしょうか？

まず、コーヒーについては、コロンビアが世界有数の生産国であることは間違いありません。ICO (International Coffee Organization: 国際コーヒー機関 2006年度)の統計によりますと、コロンビアのコーヒー生産量は732,000トンで、ブラジル・ベトナムに次いで世界第3位です。日本の生豆輸入量で

見ても、76,911トン(全日本コーヒー協会2009年度)で、ブラジルに次いで2位となっています。ということは、今朝飲まれたコーヒーが、こちらコロンビアで生産されたものだったかもしれません。

なお、ここボゴタは標高2600mにあり、気温が低いためコーヒーは育たないようです。本校の温室にも鉢植えのコーヒーがありますが、実をつけるまでには至っていません。

また、こちらでは、日本で言うところのスターバックスのような店で、1900ペソ(約100円弱)位で1杯のコーヒーを飲むことができます。

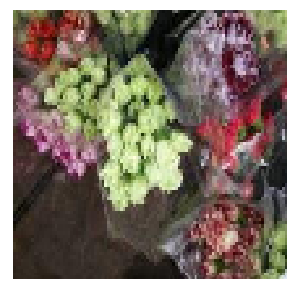
次に危険度についてです。10年程前までは、かなり治安が悪いとされていましたが、2002年に就任したウリベ大統領によって治安対策が強化されました。その結果、テロ事件の発生件数は、2002年:1,645件から2008年:347件と減少しています(日本国外務省HPによる)。実際、居住地の近くでは、8月にボゴタ市内での爆弾テロが1回あったのみです。ただし、ニュースを見ると、国内のあちこちでテロ組織が活動しているのも事実のようです。

(2) コロンビアの新たなイメージ

それでは、コロンビアを新たな3つの視点で見たいと思います。

それは、「切り花」、「カリブ海」、「アマゾン川」です。

まず、「切り花」です。世界最大の切り花輸出国はオランダですが、コロンビアはそれに次ぐ2位で、輸出量の14%を占めています(United Nations Statistics Division - COM



TRADE, Feb 2007)。また、日本がコロンビアから輸入する切り花の量は25,000トンで、1位のタイとほぼ同じ量で2位となっています。また輸入されるカーネーションのほぼ80%はコロンビア産となっています(成田空港における輸入量 平成16年 東京税関)。本校でもこの9月に、近郊の切り花農園の見学をしました。敷地内では、工夫をこらした方法で色々な花が栽培されていました。また、輸出する国に合わせて茎の長さを変えてカットするなど、新たな発見も多くありました。

次にカリブ海です。世界地図でコロンビアの位置を確認してみると、北アメリカ大陸と南アメリカ大陸をつなぐ中米・パナマのすぐ南にある



ことが分かります。南米大陸のいちばん北端といったところでしょうか。ということは、国土の北はカリブ海に面していることとなります。

そこから30分～1時間程かけて船で行くと、期待通りの海が広がるロサリオ島といった島々があります。更に北上したカリブ海の真ん中程にもコロンビア領であるサンアンドレス島やプロビデンスシア島といった美しい島々が控えています。それらの島の海は、透明度も高く、これぞカリブ海といった雰囲気です。海面下では珊瑚礁も広い範囲に分布しており、ダイビングにも最適です。



最後に、アマゾン川です。やはり地図を見ると、コロンビア南部には赤道が通っているのが分かります。その更に南に、ブラジル・ペルーと国境を接する町：レティシアがあります。アンデス山脈に源を發したアマゾン川は、そのレティシアを流れていくのです。川やその周辺には、アマゾン特有の生き物も多く生息しています。

有名なもののひとつが川イルカで、ピンク色をした姿は人気があるようです（写真はwikipediaのページより）。本校の中にも、レティシアを訪れたことがある児童・生徒が少なからずいます。

(3) 首都・ボゴタの気候

首都・ボゴタの緯度は、北緯4度です。つまり赤道にかなり近いということになります。

赴任前に「これはさぞかし暑いだろう」と思い、半袖のシャツをたくさん持って行きましたが、これは大きな誤りでした。前述した通り、標高が2600mの地点にあるのです。

これは、日本で言えば、富士山の六合目または浅間山の山頂で生活していることとなります。当然天気も変わりやすく、一日中晴れているということは滅多にありません。どちらかと言うと、曇りの日が多く、一日に一回は雨が降るといった状況です。

「常春」というイメージでいたのですが、「常に晩秋」といった感じです。朝夕は吐く

息が白いことも多々あります。

また、当然のことながら気圧も低く、酸素も薄い状態です。一緒に赴任して来た家族の中には、一週間程、高山病のような症状になった人もいました。

以上、コロンビアに関する情報をお知らせしました。皆様が最初に抱いていたイメージとは、ちょっと違ったコロンビアの横顔が見えてきたのではないのでしょうか？

新たな観点で「外国」を見る一助となれば幸いです。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

少人数だから・・・

平成22年度派遣
釜山日本人学校
教諭 奥井 隆行
(古河市立総和中学校)

1 釜山日本人学校の紹介

釜山日本人学校は、海外にある80余校の日本人学校の中で、最も日本に近い大韓民国釜山広域市の中にあります。小学部と中学部があり、41名（H22年9月現在）の子供たちが勉強に励んでいます。「狭いながらも楽しい我が家」をキャッチフレーズにして、学部に関係なく、みんなで楽しく仲良く「学び」に「遊び」に活動しています。私自身は、赴任当初、少人数であることに戸惑いを感じましたが、少人数だからできることに気がつき、それを最大限に生かした教育活動を目指して取り組んでいます。

2 少人数を生かした学習指導

今年度、私が担当しているのは、小学部3年生7名、小学部5年生6名、小学部6年生5名、中学部1年生1名、中学部2年生6名、中学部3年生1名の算数・数学です。少人数であると、児童生徒の変容がとてもよく見えます。実態を捉え、それに合った手立てを講じ、その後の変容を徹底して追うことができます。本校では「ケイン研究」（ケインとは韓国語で個人の意味）という校内授業研究を行っています。その研究も個々の変容を追いながら進めています。本年度の研究テーマは、「算数・数学科指導における学びの深化～意欲の向上と具体的成果を追って～」です。子どもが伸びていく様子を下の3つの段階に分けて考え、到達度を検証しながら進めています。



○第1段階
数学を学習をしよう

うとする意欲を持つ、具体的実践が伴う

○第2段階

学習方法を工夫できるようになる、課題選択が適切になる

○第3段階

連帯感が育つ(学び合い高め合い)、自信がつく

3 少人数の困難を乗り越える学習指導

もちろん少人数であることのデメリットもあります。互いに学び合い、高め合う授業をつくるのが困難な状況にあるということです。特に中学部の1, 3年生は、それぞれ1名ずつしかいないので、練り上げる学習が難しくなります。そこで、年間に8時間ですが、1, 2, 3学年合同授業を計画、実践しています。「数学に関する知識・理解によって差が出ない課題」であり、
 「数学的な見方・考え方や表現・処理の力を高め合うことのできる授業」であることを念頭に置き計画的に実施しています。



- 第1次 計算力アップ大作戦(正の数・負の数、文字と式)・・・2時間
- 第2次 立方体の展開図・・・1時間
- 第3次 料金プラン(関数の利用) 1時間
- 第4次 部屋割り(方程式のよさと弱点)・・・1時間
- 第5次 図形の等分(平面図形の感覚と発想力)・・・1時間
- 第6次 点字(規則性)・・・2時間

4 少人数だからできる特別活動

少人数であるから、そして海外にいるからこそ学べる活動として、現地の初等学校やインターナショナルスクールとのスポーツ交流会・文化交流会、韓国の伝統音楽に触れる国立釜山國學院での国楽鑑賞、韓国にお嫁さんに来られた日本人妻の方々が暮らしている養護老人施設「慶州ナザレ園」訪問、釜山市内にいらっしゃる芙蓉会のおばあさん方との交流などがあります。これらの活動すべてに「代表児童生徒」ではなく「全員」で参加します。そして、一人一人が主役として活動するので、全員が濃い関わりを経験することができます。これも少人数だからこそ経験できる大きなメリットです。

少人数だからこそたくさんの手立てを施すことができる、少人数だからこそ手をかけすぎてしまう、少人数だからこそ一人一人が主役になれる、少人数だからこそ集団を意識させにくい、メリット、デメリットはたくさんありますが、デメリットを乗り越え、メリットを最大限に生かす活動ができるように今日も工夫を凝らして教育活動に取り組んでいます。



広報・研修担当者よりのお知らせ

茨城県海外子女教育・国際理解教育研究会では、年2回広報紙「SECO」を発行しております。毎年第2号は雑感的なものをまとめたものです。帰国した会員や在外教育施設に派遣されている会員の現状を知ってもらい、情報交換をするためには、意味のあるものです。しかし、これだけにとどまらず、毎年第1号では、海外での現地理解教育・国際理解教育や日本での国際理解教育について、広く原稿を募集し、会員やその他の皆様の教育に資するものを作成したいと考えております。そこで、下記の通り現地理解教育・国際理解教育に関する原稿を募集いたしますので、応募をお願いいたします。

記

- 1 内容(研究テーマ)
 - ①在外教育施設や国内の学校で行った現地理解教育・国際理解教育に関する研究
 - ②派遣国理解に資する資料(自分でまとめたものに限る)
 - ③外国人児童生徒の日本への適応に資する研究(生活指導や日本語指導も含む)
- 2 応募資格
 - ・本会会員及び会長が認めた者
- 3 応募規定
 - (1) 応募条件

- ①未発表の論文や研究に限る
- ②1人一篇とする。共同執筆も可。
- (2) 形式・タイトル等
 - ①論文作成に当たっては、パソコンで「一太郎」もしくは「ワード」を使用のこと（手書き原稿は不可）。
 - ②A4用紙使用，縦置き・横書き（40字×50行）とする。
 - ③論文の構成は，表紙・要旨・本文とする（但し，それぞれ別葉にすること）。
 - ④表紙には，次の事項を記載のこと。
 - ア．研究テーマ
 - イ．氏名
 - ウ．派遣国
 - エ．派遣年度（※ 会員以外の場合は，ウ，エは記入の必要はありません。）
 - オ．学校名
 - カ．学校住所
 - キ．学校電話番号
- ※ 共同執筆の場合は，代表者の後に「代表」と記入し，共同執筆者全員の氏名を記載すること。
- ⑤ 要旨は，2，000字以内とする。
- ⑥ 本文
 - ア 制限枚数
上記②の様式で10枚以内（図

表，注釈，参考文献等含む）。
※ 表紙，要旨は，本文には含めない。
イ 参考・引用文献については，出典を明記のこと。

- 4 締切
・平成23年5月31日
- 5 提出先
・できるだけEメールの添付ファイルにて送信してください。
※ アドレス
kouhouibakai@yahoo.co.jp
・Eメールで送信することができない場合には，下記住所までFD，CD-R等の記憶媒体に入力して送付してください。
※ 送付先
〒311-2423
茨城県潮来市日の出2-25-16
河嶋 賢一
TEL 0299-66-0870
- 6 その他
・応募者多数の場合は，茨海研のホームページのみの記載となることもあることをご了解下さい。

あ と が き

ここに，2010年度の広報誌第2号をお届けします。

会長の檜山校長先生を始め，原稿をお寄せいただいた先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

私が熱帯シンガポールでの任期を終え帰国してからもう15年以上がたちました。

在外にいたことも「あんなところにいたこともあったよなあ…」という記憶の彼方についてしまっています。

今年度から広報委員を仰せつかり，私の頃にはなかったメールで世界中の任地の先生方と交信していると，かつてBCラジオを聴きながら感じていた「俺たちは地球に暮らしているんだ！！」という実感がまた蘇って参りました。

この広報誌が，帰国された先生方には海外との接点に，そして在外教育施設に派遣されている先生方には，日本との接点になってくれればいいなと感じながら編集しました。

広報誌は，下記のホームページアドレスでもご覧いただけるようになりました。興味のある方は，ご覧下さい。ホームページアドレス—<http://www.zenkaiken.net/~ibaragi/>

今後も「茨城県海外子女教育・国際理解教育研究会広報誌SECO」をよりよいものにしていきたいと思っておりますので，広報誌に関するご意見がございましたら，広報・研修担当役員まで遠慮なくご連絡ください。なお，Eメールでのご意見は，下記のメールアドレスまでお寄せ下さい。Eメールアドレス—kouhouibakai@yahoo.co.jp（文責 齋藤）

